

3月号

第402号

創刊 昭和29年7月  
題字 鶴木大寿先生

# 会 報

## 富山県小学校教育研究会

発行日 令和2年3月

発行所  
富山市千歳町1-5-1  
(富山県教育記念館)

富山県小学校教育研究会

印刷所 中央印刷株式会社

## 目の前の子供の事実に感動しながら

富山県小学校教育研究会 会長 牧野 和則



以前、6年生を担当した子供たちが成人を迎え、久しぶりに学級で集まった時のことです。クラスの中でも一番やんちゃで私からも何かと注意を受けることが多かったI君が、昔話で盛り上がっている中で、突然「先生、俺たちが算数の時間に考えていたことが、微積分につながる考えだと後で分かりました。すごいことを考えていたんだなあと思っています」と、発しました。私も、周りにいた子供たちも、一様に一瞬言葉を失いました。みんな同じことを思っていたのです。『あなたが、どうしてそれを言うの・・・?』みんな大笑いでした。私もその中の一人で、勉強とは縁遠かったI君が言った面白い話としてしか聞いていませんでした。

今年の1月、自分の授業のビデオ（平成7年度のもの）を見る機会がありました。8mmのアナログテープで撮ったものでずっと見られずにいたのですが、再生機を持っている先生がおられ、20数年ぶりに見ることができました。懐かしさも手伝って何度も再生し、思いを巡らせていました。子供たちの動きの中で、注目したのは次の場面でした。20数年ぶりの私の発見があったのです。私にしか分からない感動がありました。

単元名 形と体積  
～自分がつくり出した公式～

M児 ぼくは、三角柱は底面が伸びた形としてイメージしている。だから、体積は、底面積×高さをすれば出せると思う。

K児 面積にかけても面積が大きくなるだけではないのかなあと思う。だから、ちょっとM君の考

えには納得できない。

Y児 僕も最初はおかしいと思っていたんだけど、底面積×高さではなく、底面は1cmの厚みがあると考えれば、計算上同じ答えになるからM君の考えでもいいかなと思う。

K児 Y君の説明は納得できる。

T M君もそのように考えているのかな？

M児 ぼくはちがう。やっぱり三角柱は面積が伸びた形として考えている。

I児 ぼくは、三角柱を面積が伸びた形としては全然見ていなかったの、君の考え方はすごいと思った・・・。

全く忘れていましたが、I君は、M君の三角柱の捉え方に心を動かし発言していたのです。20数年ぶりにこのI君の事実に出会い、当時（成人式）の自分自身の対応の浅はかさを反省するとともに、I君は高校生の微積分の勉強の中で、仲間と考え合った小学校での学習経験を再構成し学びを深めていったのではないかと、自分勝手に解釈し、微笑みながらビデオに見入っていました。

目の前の子供たちが一歩でも二歩でも高まるために、真摯に資質向上を目指していこうとする崇高な思いをもった私たち小教研の仲間が、「実践資料を持ち寄り、子供の姿で語ろう」を合い言葉に、これからも子供の事実にしっかり向き合い、子供たちと共に成長していくことを願ってやみません。

目の前の子供の事実に感動しながら仕事ができる。そして、共に成長できる。

こんなすばらしいやりがいのある仕事は他にはないのでから・・・。